

繊維製品、木材等の難燃化に最適

GP 防炎剤

日本防炎協会認定 防炎薬剤 (試験番号 F2130001)

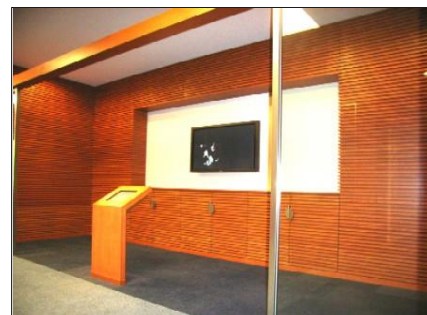
試験番号
登録番号
防炎薬剤
公益財団法人 日本防炎協会



処理済



未処理



●画期的な防炎性能を実現

GP防炎剤を処理した障子紙と未処理の障子紙による燃焼実験。 火炎にふれると炭化し燃え上がらず、自己消化性能を発揮します。

●水性・ノンハロゲンで安心

主成分には、ポリリン酸アンモニウムを使用。 水性であるため揮発性有機溶剤等は一切使用していませんので、公的試験でも人体に有毒なガスが発生しない事も認められたほか、数々のデータが人や環境への安全性を実証しています。

●施工性

スプレー・ハケ・ローラー・含浸など、基材にあった方法で施工できます。 また、水性なので、使用後施工器具も簡単に水で洗い流せます。

●適用下地と用途

○木質系資材

一般木材、合板、MDF、チップボード、木製ドア、木製窓枠、外壁材、家根材、畳などの不燃・難燃化

○繊維製品

カーテン、クロス、カーペット、じゅうたん、衣服、ソファなど防炎化

○紙製品

障子、ふすま、梱包紙、段ボール、書物、紙クロス、キャンバスなどの防炎化

●素材を変えません

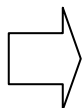
無色透明の GP 防炎剤は基材の素材感を変えず、変色もしません。

●吹き付け、浸漬法により、難燃の性能が得られます。

○燃焼試験 ※石川県森林組合連合会様にて実験実施



左側: GP防炎剤含浸木材
右側: 普通の木材



右側の小屋は全焼状態。左側の小屋は一部炭化しているが発火はしていない



右側の小屋は屋根の一部と軒下部の燃え広がるが左側の小屋は発火せず

株式会社グローケミカル

〒916-0073 福井県鯖江市下野田町 28-4

Tel: 0778-62-3158 Fax: 0778-62-3160

<http://www.growchemical.net>

E-mail: info@growchemical.com

GP 防炎剤の使用法

○製品説明

GP 防炎剤は、浸透式でノンハロゲン系の水溶性防炎剤です。当製品は多種の難燃剤、浸透促進剤などで構成され無毒無臭です。さらに揮発性有機溶媒（VOC）など一切使用しておらず、人体及び環境に優しい製品です。

又、浸透性のある物であれば素材の風合い、特性、色、形等を変える事なく防炎性能を持たすという特徴を持っています。

○適用材料

紙製品：障子・壁紙・襖・包装紙・段ボール・証券・重要書類等。

布製品：カーテン・絨毯・布製ブラインド・シーツ・クッション・ぬいぐるみ等。

木製品：各種木材料・ベニヤ等の合板・木製建具・木製家具等。

その他：舞台のどん帳、暗幕・テント、トラックの帆・神社、仏閣等の重要文化財等。

* 材料表面に光沢加工、防水加工された製品・材料は対象となりません。

* カーテン・絨毯などで化学繊維が20%以上含まれる布製品には使用出来ません。

* 近年、障子でも『破れない障子』として化学繊維が含まれているものもありますが、それに対しても不適合です。

○適用範囲：屋内のみ（屋外に使用する場合のみ当社指定のトップコート使用）

○製品特性

主要成分：ポリ燐酸アンモニウム（食品添加物）、硫酸アンモニウム（食品添加物）

比重：1.100 重量：1.125kg/ℓ

色：無色透明 PH：7.50

○使用方法

1) 表面処理

GP 防炎剤を塗布する前の一般的な材料表面への事前処理として、材料面はゴミ、汚れ、油脂、レイタンス等を除去し綺麗にしてください。また塗布する製品を乾燥状態にしてください。

2) 塗布作業

GP 防炎剤は、①スプレー吹き方法・②ハケ塗り方法・③含浸方法・④機械含浸方法があります。

①～③は主に紙製品、布製品などの塗布方法で、④は木製品等の塗布方法となります。

* 本格的な塗布作業前に必ず少量のGP 防炎剤を部分的に塗布し、変色・変形等が無いことを確かめてから塗布してください。

①スプレー吹き方法

器具：噴霧機又はハンドスプレー

GP 防炎剤：原液（3回吹き付け・吹き付け間隔は触手乾燥で確認）

器具を使用して塗布表面から15cm～20cm位の間隔を保ち、多少多めに滴り落ちる位塗布してください。

GP 防炎剤は簡単に浸透しますので、もし可能であれば両面に塗布してください。その後日の当たらない場所で乾燥してください。

②ハケ塗り方法

器具：水性塗料用ハケ（3回塗り・塗り間隔は触手乾燥で確認）

GP 防炎剤：原液

ハケに十分な量のGP 防炎剤を含ませて、多少多めに滴り落ちる位塗布してください。

GP-防炎剤は簡単に浸透しますので、もし可能であれば両面に塗布してください。その後日の当たらない場所で乾燥してください。

③含浸方法

器具：含浸させる製品が全部入る容器。（パレット・バケツ等）

GP 防炎剤：原液

器具に十分な量のGP 防炎剤を入れ、その中に製品を投入し3分放置した後、器具から製品を取り出して下さい。取り出すときは、

GP 防炎剤をよく切ってから日の当たらない場所で乾燥してください。

④機械含浸方法

器具：減圧含浸装置（76cm Hg）

GP 防炎剤：原液

始めに、含浸したい製品のサイズから飽和含浸になるまでの重量を割り出して下さい。

その後、器具に十分な量のGP 防炎剤を入れ、まず製品サンプルを使用し、含浸（機械の最大許容負圧で行う）して下さい。

含浸の途中30分間隔でサンプルを取り出し、重量を計りサンプルが飽和含浸になるまでの時間を割り出して下さい。これで製品の

飽和含浸に至までの時間が判明しましたので、次からはその含浸時間に従って工程を行って下さい。その後、製品を取り出し

GP 防炎剤をよく切ってから日の当たらない場所で乾燥してください。

《 石川県森林組合連合会認定 国住指第 1256 号 準不燃認定番号 QM-0385 》

《 日本防炎協会 防炎加工専門技術資格 第 5078 号 》